

I 事務事業基本情報

総合計画統括CD	02 06 01 10	重点政策分類	生きがい	所管部課	健康福祉部高齢福祉課
事務事業名	伊達はつつ元気塾事業			担当課長名	板宮 恵
				作成者名	波多野 弥生
総合計画分類	名 称			担当歴	平成 30 年度から
政策	02	福祉・市民生活		電話(内線)	309
施策	06	高齢者福祉の充実		事業年度	開始年度 H27年度
基本事業	01	高齢者の生きがいづくりの推進		終了(予定)年度	-

H29会計区分	4	介護保険特別会計	新継区分	<input type="checkbox"/> 新規 <input checked="" type="checkbox"/> 継続	経費区分	<input checked="" type="checkbox"/> 政策 <input type="checkbox"/> 投資 <input type="checkbox"/> その他	補助・単独区分	<input checked="" type="checkbox"/> 補助 <input type="checkbox"/> 単独
予算科目	3	地域支援事業費	根拠法令・個別計画等	事業実施の根拠となる法令、条例、規則、要綱及び個別計画を全て記載 老人福祉法、伊達市高齢者保健福祉計画・介護保険事業計画(第6期計画) 伊達はつつ元気塾事業実施要綱				
項	1	介護予防・日常生活支援総合事業費						
目	1	介護予防・日常生活支援総合事業費						
予算書上の事務事業名	一般介護予防事業費(地域介護予防活動支援事業)							

II 事務事業概要

対象	誰を、または何を対象とした事務事業なのかを具体的に記載		伊達市居住の概ね65歳以上の高齢者		執行形態		事務事業の執行方法をチェック <input type="checkbox"/> 直営 <input checked="" type="checkbox"/> 一部委託 <input type="checkbox"/> 全部委託 <input type="checkbox"/> 指定管理 <input checked="" type="checkbox"/> 補助・負担金 <input type="checkbox"/> 市民と協働 (委託・交付先等: 市社会福祉協議会)					
	当該事務事業が何をねらいとし、対象をどのような状態にしたいのか。また、どのような成果を目指しているのかを具体的に記載											
目的	有珠・黄金地区のコミュニティセンターにおいて介護予防プログラム(健康カラオケ)と食事の提供を行うことで、高齢者の健康づくり・介護予防・認知症予防と地域における高齢者のコミュニティを創出・活性化を目的とする。更に、音楽健康指導士の育成により高齢者の活躍の場を広げることを目的とする。											
	成果	成果指標名	単位	25年度(実績)	26年度(実績)	27年度(実績)	28年度(実績)	29年度(実績)	30年度目標値	「目的」がどの程度達成されたか(成果)を測定できる適切な指標(数値等)を最低1以上設定して記載		
		① プログラム参加者数	人			80	62	39	80			
② 主観的健康観を「よい」と答える者の割合	%			67	51	38	80					
③ 音楽健康指導士活動者数(延数)	人			1	5	7	10					
成果指標の考え方・計算根拠等	①対象人数を40名程度としているため2ヶ所で80名とした(1回以上参加した者を数に含む)。 ②参加者の介護予防効果について、運動・口腔・認知機能テストや主観的健康観を評価している。このうち、主観的健康観が「よい」「まあよい」と回答する者の割合で総合的な成果評価とし、目標を80%とした。 ③音楽健康指導士2級の資格を取得し地域で活動する者の数(実際にプログラム実施箇所に出向き活動した人の数を算出)。H29年度取得者も含め、H30年度は増加を見込んだ。											
総合計画の成果指標に係る活動成果	重点政策(食・教育・生きがい・環境)については、総合計画「Ⅲ-2重点政策」(P16~P23)で定めた成果指標について記載											
手段	上記目的を達成するために、どのような方法で事務事業を実施したのかを具体的に記載											
	活動実績	活動指標名	単位	25年度(実績)	26年度(実績)	27年度(実績)	28年度(実績)	29年度(実績)	30年度目標値	「手段」として提供した行政サービスや活動の実績を指標(数値等)に表示して記載		
		1 プログラム実施箇所	箇所			2	2	2	2			
2 音楽健康指導士資格補助交付件数	件			2	9	5	-					
活動指標の考え方・計算根拠等	①現在の実施形態ではなく、将来的には自主運営を目指していることから実施箇所は横ばいとした。 ②平成29年度は5名募集し、5名の取得となり、音楽健康指導士の資格取得者は確保できた。H30年度は、資格取得後のフォローアップ研修を行う形に移行したため、新規養成研修補助は終了とした。											
事務事業の現状と課題	事業の現状と事業を進めていくうえで課題となっていた事項を記載											
	・参加者は健康づくりや介護予防に一定の効果みられているが、参加者数は事業開始当初からみると減少している。今後は、参加者増に向け事業内容や周知方法に加え、自主運営化に向けた運営方法を検討し、支援する必要がある。 ・音楽健康指導士については、資格取得後のフォローアップ研修を行うことで、様々な活動に取り組めるよう支援している。今後はより多くの取得者が元気塾のみならず、色々な場で活躍できるよう支援が必要である。											
改善点	上記の現状と課題に対し、当該年度の重点取組事項、設定した目標を具体的に記載											
	・参加者を増やすため、参加継続者や参加中止者への個別通知や地域住民へのチラシ配布、お試し参加、年度途中での参加募集を実施。 ・事業終了時に参加者へのアンケートと意見交換会、参加中止者へのアンケートを実施。 ・音楽健康指導士取得者に対するフォローアップ研修を実施。その後の活動の場の確保。											
	上記の重点的取組事項、設定した目標に対する改善内容及び検討(実施)中の改善内容及び当該年度を記載											
改善点	(平成29又は30年度)既に改善済	■ 事業内容 ■ 投入経費 □ 人員の配置 □ その他	・音楽健康指導士4名の活動を支援した。また、資格取得者に対して、技術習得度に合わせてフォローアップ研修を実施。 ・元気塾参加者、音楽健康指導士として活動した者に伊達まちカードのポイントを付与する「伊達はつつポイント事業」を実施。 ・黄金地区の送迎方法の見直しにより経費を削減。 ・H29年度の参加者及び参加中止者へアンケートを実施し、プログラム時間や周知方法の変更を行った。 ・提供される食事の内容が油っぽい、野菜が少ないなどの不満があったが、食育センターに変更後、不満は解消された。									
	(平成30年度)改善を検討中(又は実施中)	■ 事業内容 □ 投入経費 □ 人員の配置 □ その他	・事業参加者の増加を目指し食事の必要性の有無を含めた事業内容や自主化に向けた取り組みを検討していく。									

平成 29 年度実施事業

総合計画統括CD	02	06	01	10	重点政策分類	生きがい
事務事業名	伊達はつつ元氣塾事業				CD	10

所管部課	健康福祉部高齢福祉課
担当課長名	板宮 恵
作成者名	波多野 弥生

Ⅲ 投入経費 (input)

投入経費 区分	25年度 (実績)	26年度 (実績)	27年度 (実績)	28年度 (実績)	29年度 (実績)	30年度 (計画)
直接事業費 (A) 千円			3,794千円	2,881千円	2,278千円	3,339千円
国・道支出金 千円			2,600千円		737千円	950千円
地方債 千円						
その他特財 千円			1,000千円	333千円	1,139千円	1,669千円
一般財源 千円			194千円	2,548千円	402千円	720千円
参考人件費 (B) 千円			1,159千円	1,147千円	1,135千円	1,167千円
一般職員 千円			1,159千円	1,147千円	1,135千円	1,167千円
一人当たり年間平均給与 千円	5,481千円	5,821千円	5,794千円	5,733千円	5,673千円	5,835千円
投入人員 人			0.20人	0.20人	0.20人	0.20人
嘱託職員 千円						
一人当たり年間平均賃金 千円	2,365千円	2,428千円	2,550千円	2,602千円	2,664千円	2,722千円
投入人員 人						
臨時職員 千円						
一人当たり年間平均賃金 千円						
投入人員 人						
投入経費 C=(A+B) 千円			4,953千円	4,028千円	3,413千円	4,506千円
人件費比率 D=(B/C) %	#DIV/0!	#DIV/0!	23.4%	28.5%	33.2%	25.9%

Ⅳ 一次評価

評価の視点	評価	判断理由 (左記の評価を選択した理由を具体的に記載)
観点別評価	目的妥当性	<p>今後も市が主体または関与して事務事業を行っていくことは妥当か？</p> <p><input type="checkbox"/> 法律等で義務付けられている <input checked="" type="checkbox"/> 妥当である <input type="checkbox"/> 見直しの余地がある</p> <p>(法律等名称：介護保険法)</p> <p>市町村は、被保険者の要介護状態等となることの予防又は要介護状態等の軽減若しくは悪化の防止及び地域における自立した日常生活の支援のために地域支援事業として介護予防に資する住民の通い場等の活動場所を設置することとなっている。</p>
	有効性①	<p>成果が出ているか？</p> <p><input type="checkbox"/> 目標とする成果が出ている <input checked="" type="checkbox"/> 少し成果が出ている <input type="checkbox"/> 思うように成果が出ない</p> <p>事業開始当初から参加している者に加え、参加中止者の再参加や継続参加者からの口コミにより、新たな参加者が増えてきている。地域の活動の場として定着しつつある。介護予防に対する効果も一定程度みられた。</p>
	有効性②	<p>成果を向上させることはできるか？</p> <p><input type="checkbox"/> 大きく向上できる <input checked="" type="checkbox"/> 向上できる <input type="checkbox"/> 向上は難しい</p> <p>・継続参加により介護予防につながる。 ・音楽健康指導士は現在4名が元氣塾（黄金）や市内介護予防グループで活動しており、今後は、他の取得者のフォローアップ研修を実施し、同時にその方々の活動機会を増やしていくことにより、成果の向上が可能である。</p>
	効率性	<p>妥当な経費で事業が執行されているか？または、成果を落とさずに投入経費を削減することはできるか？</p> <p><input type="checkbox"/> 経費削減は可能 <input checked="" type="checkbox"/> 経費削減は難しい</p> <p>平成28年度から参加者より1回500円を徴収し、また、送迎方法の見直しにより経費削減に努めた。現在かかっている経費は事業実施に最低限必要な経費のみであり、今以上の削減は難しい。</p>
	公平性	<p>事業が一部受益者に偏っていないか？受益と負担のバランスは妥当か？</p> <p><input checked="" type="checkbox"/> 妥当である <input type="checkbox"/> 見直しの余地がある</p> <p>平成28年度より黄金地区、有珠地区以外の市民も自分で会場まで来ることができれば参加は可能としたことにより、地域による偏りがなくなった。</p>

総合一次評価	今後の方向性	方向性の判断理由 (左記の方向性を選択した理由を具体的に記載)
	<input type="checkbox"/> 拡充 <input checked="" type="checkbox"/> 維持 <input type="checkbox"/> 縮小 <input type="checkbox"/> 統合 <input type="checkbox"/> 休止 <input type="checkbox"/> 廃止 <input type="checkbox"/> 事業完了	<p>継続者もいることから、地域の事業として定着しつつあるが、今後はコミュニティの活性化が望まれる。継続運営に向けては、自主化を視野に検討していくことが必要である。</p> <p>音楽健康指導士については、取得者が元氣塾、市内介護予防グループで活動を行っている。今後も他の取得者にフォローアップ研修を行うことで活躍の機会を広げ、自身の介護予防のみならず地域コミュニティの活性化に向けて、活動を行っていくことが期待される。</p>

担当課長コメント	事業の進捗状況及び今後の展望等について記載
	<p>高齢者の健康づくりや介護予防、コミュニティの活性化をねらいとした事業ですが、参加者数及び地域への広がりの中で伸び悩んでいます。周知方法はもちろんですが、“我が地域の事業”という認識が弱いところに課題があると思います。今後は自主運営化に向けた取組が必要となりますが、そのためには事業内容の簡素化も検討すべきと考えます。</p> <p>いずれにしても地域住民や参加者の意見を聞き、十分な協議が必要と考えます。</p>

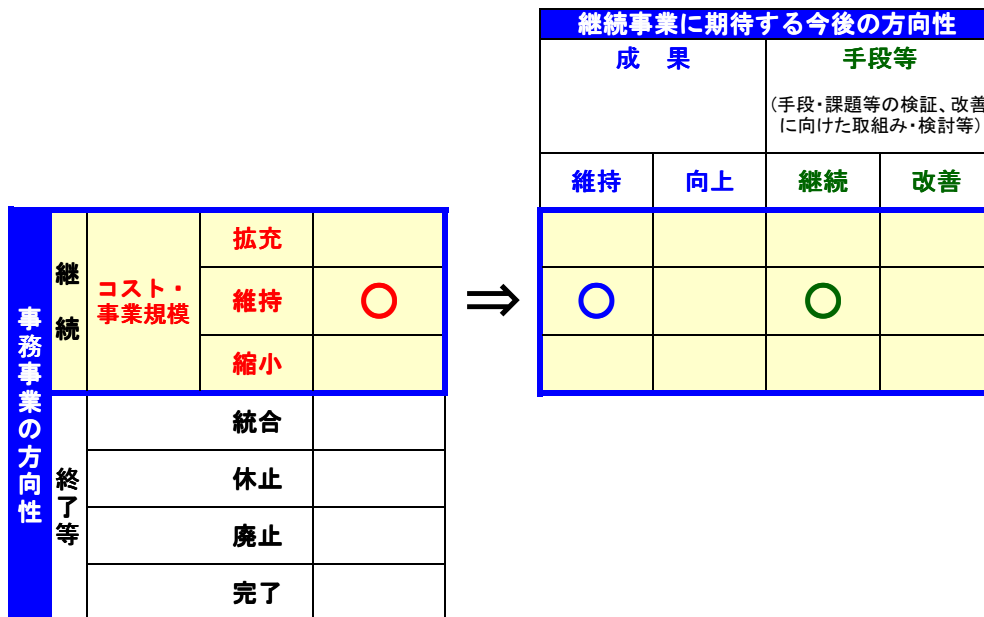
◆ 事務事業評価会議の検討内容

平成 29 年度実施事業		総合計画統括CD		02	06	01	10	重点政策分類	生きがい	事業CD	10	所管部課	健康福祉部高齢福祉課
事務事業名	伊達はつつ元気塾事業							事業CD	10	担当課長名	板宮 恵	作成者名	波多野 弥生

1 二次評価

評価項目	評価の視点			評価	
	評価の凡例	評価項目の求める水準を達成している。	○		
観点別再評価	目的妥当性	今後も市が主体、または関与して実施することが妥当である。		○	
	有効性①	成果が出ている。または、事務事業の目的が達成されている。		△	
	有効性②	評価の凡例	今後、成果を向上することができる。または、成果を向上させる余地がある。	○	△
			大きく向上できる	○	
			向上を期待できる	△	
	効率性	妥当な経費で事業を執行している。		○	
公平性	受益と負担のバランスは適当である。		○		
事業ランク評価	総合計画上の視点	総合計画における当該事業の位置付けが明確であり、かつ本計画の施策の推進に貢献度が高いと認められる。		○	
	事業の必要性の視点	既に明らかとなっている課題や、今後予想される課題の解消に向けて、当該事業の必要性が真に認められる。		○	
	事業効果の検証の視点	事業の効果が客観的に検証されている。または、事業の効果が現れていない場合であっても、その原因を分析し、有効な方策が検討または実行されている。		○	

2 二次評価に基づき期待する今後の事務事業の方向性



3 その他（特記事項・評価に関する補足事項等）

介護予防や高齢者のコミュニティ活性化に向けて本事業は有益であり、重要な役割を持つものと考えます。引き続き地域住民や参加者の意見を参考にし、自主運営化に向けた取組に期待します。